

Finding You!

市立札幌開成中等教育学校 充実期6,7期生 通信
発行:令和2年11月6日 金曜日

No.4



「夢を叶える」 ことについて

古田貴之氏 講演風景



後期が始まり、1ヶ月が過ぎました。あっという間に冬が訪れそうです。さて、10月は皆さんにとってとても特別な講演がありましたね。3年生は社会福祉法人ゆうゆう理事長の大原裕介さんから、そして4年生は本校のSSH運営指導委員でもある千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長の古田貴之さんからお話を聞くことができました。古田さんはAIロボット研究における第一人者であり、その圧倒的な存在感は唯一無二。多くの生徒は古田さんのこれまでの功績、最新の技術や未来の姿にきっと心がワクワクしたことと思います。一方、まったく違う視点で日本の未来や、私たちのあり方を示してくれたのが大原さんです。講演前のみなさんの「福祉」のイメージは決してポジティブでクリエイティブではなかったことと思います。それがどうでしょう。大原さんの静かで、でも力強く、温かい言葉一つ一つに心が動いた人は少なくないはず。「福祉」という仕事からは想像もできないような、創造的で喜びに溢れる実践に驚きと感動でいっぱいだったと思います。

大原裕介氏 講演風景



お二人に共通している点は、まずは飽くなき探究心だと私は思いました。決して諦めずに前に進もうとする力。何度も何度も失敗をしては挑戦をして、未開の地を切り開くその姿から私たちは多くのことを学ぶことができました。またその原動力は何かと考えると、深い愛だと思えました。お二人とも決して地位や名声に目が眩むことなく、自分の想像する未来を実現するために邁進されていました。何よりも私を感じたことは他者貢献と自己幸福が一致していることです。古田さんは「社会に還元されない技術に価値はない」とはっきり言いました。大原さんは「事業を大きくするのはお金のためではない。やりたいことを実現するため」と話していました。

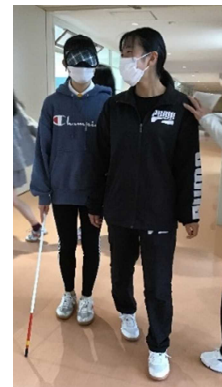
みなさんのやりたいことは他者とつながっていますか？誰かの喜びに貢献できるものになっていますか？今一度、学校教育目標を思い出してください。そしてIBの学習者像も思い出してください。

「あなたのやりたい」が「みんなのやりたい」になれるよう考えてみてください。講演してくださったお二人は決して「私だけで成功した！」だなんて思っていません。そう見えたのなら、それは違います。お二人は誰よりも他者を想い、他者を巻き込み、一緒になって「みんなの夢」を叶え続ける実践者です。

どうか「あなたの夢」が「みんなの夢」になることを願っています。(充実期主任 黒井)

「いのちを考える」

「いのちを考える学習」は、札幌市で認定している「こどものいのちの大切さを見つめ直す月間」に合わせて本校独自で行っているプログラムです。3年生は10/23に「共生社会を生きる」というテーマで聴覚障がい、視覚障がい、肢体不自由、発達障がいについてお話を伺ったり体験をしました。11/6にはパラスポーツを体験する予定です。4年次は「生命と人権」をテーマに、事前学習で理解を深めたうえで産婦人科医師の講演を聞きました。生徒のみなさんが書いてくれた振り返りシートは、感動と発見と感謝のちりばめられた素敵なものばかりでした。「共生社会を生きる」と大原さんの講演の感想を抜粋して紹介します。(充実期副主任 佐藤由佳)



「私がこの講座を受けさせていただきたいと思ったのは、中学生になってから地下鉄を利用するようになり、視覚障がいのある方を見かけることが多くなりましたが、どのようにお手伝いさせていただけるのかわからず、なかなか声をかけることができなかつたからです。本日、アイマスクをつけて歩いてみたり、貴重なお話をきかせていただいたので、これからは勇気と知識と思いやりを持って、視覚障がいのある方に声をかけてみようと思います」



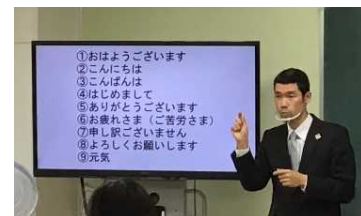
「今回の講演を聞いて、障がいにも様々な種類があり、障がい者の人々ひとりひとりと向きあう必要があると理解することができました。また、今の時代コミュニケーションツールが多くある中で、手話は本当に多くの人に触れられるものだと感じ、多くの人に知ってもらいたいと思いました。一番心に残ったのは、どこの地域でも手話という文化があることです。国によって文化が違う国であるのに多くの地域で行われているということは、どこにでも障がいを持っている人がいるという実感につながりました」

「今回、講演を聴き、福祉は人と人とをつなげる仕事なのだなと思いました。そして、それは日本人が平屋に住んでいた時のような対話のあふれるコミュニティの再建につながるのではないかと感じました。そのような社会ができるよう、私も何かできることを探して行こうと思います。」

「正直、僕は今回、また理想だけを語られると思っていました。ですが、今回の講演を聴き、福祉が多くの人を本当の意味で救うことができると知ることができました。それは僕の心を根底からくつがえされたようでした。ひとりひとりを助けたところで何になるのだと思っていましたが、一人一人を助け、その人も誰かを助ければ、大きなものになるとわかりました。」

「福祉と一言で言っても、いろんなことに熱意をもってチャレンジすることで、多くの人を幸せにすることができるとことを知ることができ、希望を持てた。あきらめずに取り組むことが人生を切り開くことにつながると気づけた。今までうけた講演の中で最も印象的だった。とても有意義な時間だったと思う。」

「福祉の可能性について学ぶことができましたが、それ以上に、仕方ないで終わらせず、考え、1%の可能性を見つけ出し行動するということに対して、私自身の「できないものはあきらめると」という考え方が大きく変わりました」



「私は将来児童と心理について勉強したいと思っています、今日の講演会でさらにその気持ちが強まった。私もこれから、誰かの「好き」を実現させていきたい。福祉は、ただ食事を食べさせたりオムツをかえたりするだけだと思っていたが、本当の福祉はそうではないのだと思った。」